

A dark, textured background map of China and surrounding regions, including parts of Korea, Japan, and Southeast Asia. The map is rendered in a muted, historical style with brown and green tones.

中国の文化Ⅸ 第12回

# 北宋時代(下)

三国志の誕生

## 俗文学Ⅱ庶民文学の時代へ

日本で藤原氏一門が権勢を極めていた平安時代、中国では武人の台頭によって貴族の時代は終わり、庶民の時代が始まっていた（唐宋変革期）。文学の主体も貴族から庶民に代わり、詞の隆盛や本格的な演劇の誕生とともに、史書を素材とする「説古話」と呼ばれる歴史講釈が人気を博していた。

日本の琵琶法師が語った『平家物語』と同様、仏教思想の影響を強く受けた「説古話」は、出版業の発展とあいまって、仏教の絵解き講釈を模した挿絵入りの通俗読み物として出版された。その一つが元代に刊行された『全相平話三国志』である。

明代になると、モンゴルの支配を脱した漢民族は、外来の仏教思想を排して、民族の伝統思想である儒教を基にこの物語の改編を行った。こうして誕生したのが、中国の俗文学を代表する『三国志演義』である。

## 第四節

# 三国志の誕生

俗文学時代の開幕

## 俗文学Ⅱ庶民文学の誕生

唐宋変革期を経て、庶民の時代を迎えた中国では、民間の語り物を口述筆記したり、その語り口を模して書かれた「白話小説」が出版され、人気を呼んでいた。『三国志演義』もその一つである。無味乾燥な史実を記しただけの正史『三国志』は、どのようにして中国の俗文学を代表する『三国志演義』へと発展したのか。

今回の講義では、魏の曹操の物語を例に『三国志演義』誕生までの歴史を考えてみたい。





## 三国志演義の梗概(一)

ときは後漢の末。張角の率いる黄巾の乱が全国を席卷していた。

そんな中、三人の英雄が登場する。

劉備、関羽、張飛である。三人は義兄弟の契りを結ぶと(桃園三結義)、各地を転戦して乱の平定に功をあげる。

ところが、乱の平定後に行われた論功行賞では、平民出身の彼らには十分な恩賞は与えられなかった。

その後、劉備は県尉という末端の官職を与えられるが、中央から巡察に來た督郵の不正に腹を立て、官職を捨ててしまう。(打督郵)

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 晋 265-316 |           |           |

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

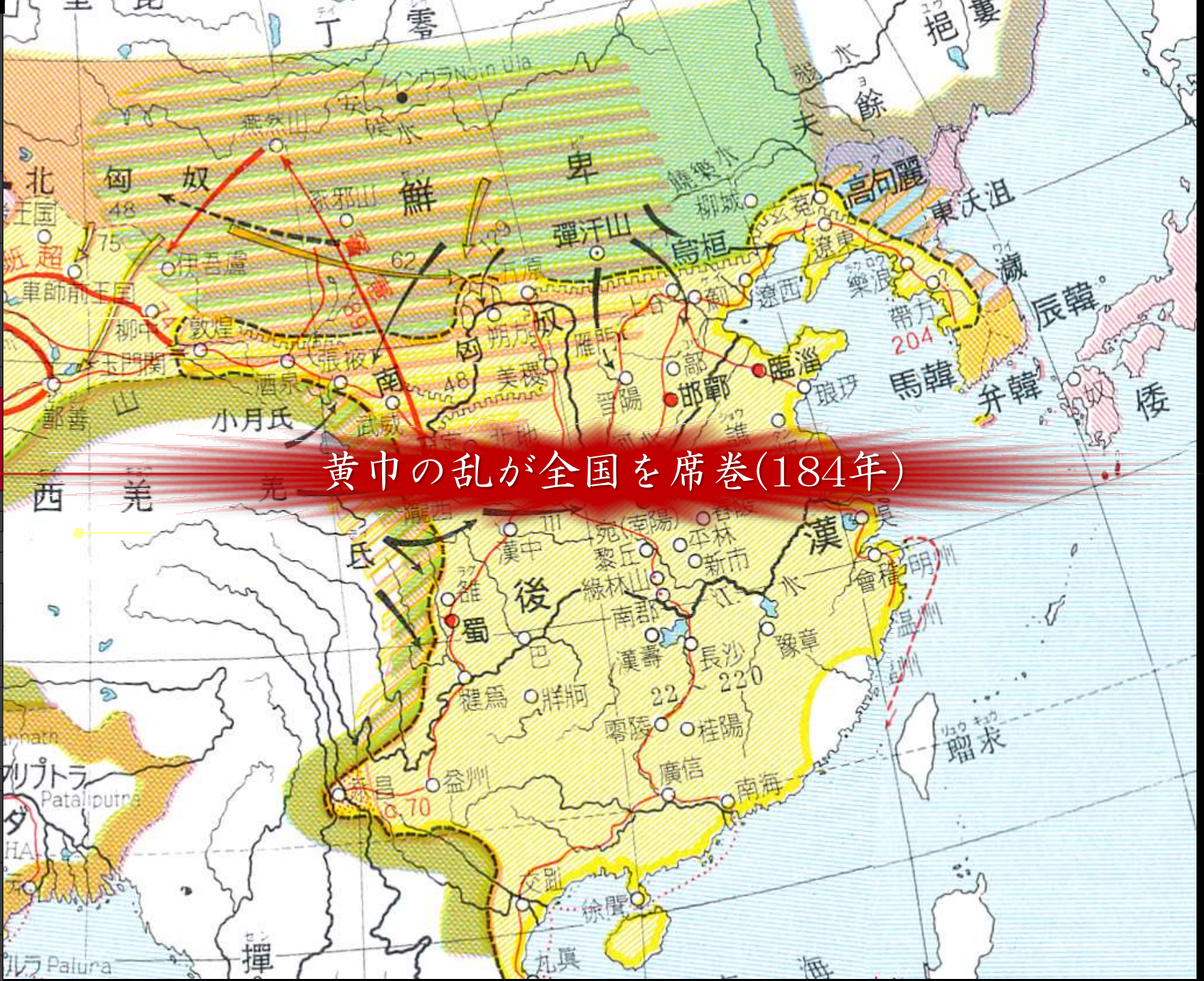
元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-



## 三国志演義の梗概(二)

そのころ、朝廷内では宦官と外戚の権力争いが頂点に達し、やがて朝廷の実権は董卓という人物に握られてしまう。

ここにもう一人の英雄が登場する。後に魏の高祖となる曹操である。曹操は董卓の暗殺を企てるが、失敗し、都を脱出する。

曹操は追っ手を逃れ、中牟県(河南省鄭州)にたどり着くが、ここで県の役人に捕らえられてしまう。(捉放曹)





資料映像：中国テレビドラマ「三国志高希希監督、2010年）より

## 三国志演義の梗概(三)

中牟県の県令・陳宮は、曹操の朝廷への忠心に心打たれ、官を捨てて曹操と行動をとるにする。

二人を捕らえるため、各地に人相書きが貼り出され、曹操の首には千金、陳宮には五十金の懸賞金がかかけられる。逃げ場を失った二人は、曹操の父親と義兄弟の契りを結んでいた呂伯奢を訪ねる。

呂伯奢は曹操らを温かく迎えるが、町へ酒を買いに行っている間に、思わぬ事件が起こる。





資料映像：中国テレビドラマ「三国」（高希希監督、2010年）より（06:38）



### 三国志演義の梗概(四)

猜疑心から呂伯奢一家を惨殺して  
しまった曹操と陳宮。

二人は逃亡の途中、町から帰って  
きた呂伯奢と遭遇する。曹操は自ら  
の身を守るため、信じられないよう  
な行動をとる。





資料映像：中国テレビドラマ「三国」（高希希監督、2010年）より（06:38）

三国志演義の中で、曹操という人  
間の冷酷さを強く印象付ける呂伯奢  
一家惨殺事件。この事件は正史『三  
国志』の中ではどのように記述され  
ているのだろうか？



# 三國志

# 正史とは？

## 〔解説〕

中国では王朝が交替すると、次の王朝が正統な継承者であることを示すため、前の王朝の歴史を編纂する伝統があった。こうして編まれた史書を「正史」という。

## 中国の正史 二十四史（二十五史）

史記

漢書

後漢書

三国志(魏書、呉書、蜀書)

晋書

北史

魏書

南史

宋書

南齊書

梁書

陳書

周書

北齊書

隋書

旧唐書

新唐書

旧五代史

新五代史

遼史

金史

宋史

元史（新元史）

明史

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

|                    |             |              |
|--------------------|-------------|--------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC   |             |              |
| 周 1046BC-771BC     |             |              |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC |             |              |
| 秦 221BC-207BC      |             |              |
| 漢 206BC-220AD      |             |              |
| 魏 220-265          | 蜀 221-263   | 呉 222-280    |
| 晋 265-316          |             |              |
| 五胡十六国時代            |             | 東晋 317-420   |
| 北朝 439-589         |             | 南朝 420-589   |
| 隋 581-619          |             |              |
| 唐 618-907          |             |              |
| 五代十国 907-960       |             |              |
| 遼                  | 北宋 960-1127 |              |
| 金 1115-1234        |             | 南宋 1127-1279 |
| 元 1271-1368        |             |              |
| 明 1368-1644        |             |              |
| 清 1616-1912        |             |              |
| 中華民国 1912-1949     |             |              |
| 中華人民共和国 1949-      |             |              |

# 正史から小説へ

西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

刺史郡守以叛眾十餘萬天下騷動徵太祖爲典軍校尉會靈帝崩太子卽位太后臨朝大將軍何進與袁紹謀誅宦官太后不聽進乃召董卓欲以脅太后進書曰太祖聞而笑之曰關聖之官古今宜有但世主不當假之權讓使至於此既治其罪當誅元惡一獄吏足矣何必紛紛召外將乎試觀詠卓未至而進見殺卓到廢帝爲弘農王而立獻帝京都大亂卓表太祖爲驍騎校尉欲與計事太祖乃變易姓名魏書曰太祖以卓終必覆敗遂不就拜進歸鄉里從數騎過故人成單因伯有伯者伯者出行五子皆在備賓主禮太祖自以背卓命疑其圖已手劍後殺八人而去出關過中牟爲亭長所疑執詣縣邑中或竊識之爲請得解世語曰中牟人見拘於縣時亦已被卓害事功曹心知是太祖以世方亂不宜拘天下雄傑因白令釋之卓遂殺太后及弘農王太祖至陳留散家財合義兵將以誅卓冬十二月始起兵於己吾世語曰陳留孝廉衛茲以家財資太祖使起兵是歲中平六年也初平元年春正月後將軍袁術冀州牧韓馥

(晋) 陳寿『三国志』(大きな字の部分)

# 無味乾燥な正史の記述

## 〔解説〕

正史は前の王朝の歴史を史料に基づいて史実に記録したものである。このため、その内容は無味乾燥なものが多い。

西晋の陳寿が著した『三国志』の内容も、後の『三国志演義』に見られるようなドラマチックなものではなかった。

刺史郡守以叛眾十餘萬天下騷動徵太祖為典軍校尉會靈帝崩太子即位太后臨朝大將軍何進與袁紹謀誅宦官太后不聽進乃召董卓欲以脅太后進書曰太祖聞而笑之曰關聖之官古今宜有但世主不當假之權謀使至於此既治其罪當誅元惡一獄吏足矣何必紛紛召外將乎欲誅詠之事必宣露吾見其敗也卓未至而進見殺卓到廢帝為弘農王而立獻帝京都大亂卓表太祖為驍騎校尉欲與計事太祖乃變易姓名聞行東歸書不在其子與賓客共劫太祖取馬及物太祖手刃擊殺數人世語曰太祖過伯奢伯奢出行五子皆在備賓主禮太祖自以背卓命疑其圖已手刃後殺八人而去出關過中牟為亭長所疑執詣縣邑中或竊識之為請得解世語曰中牟人見拘於縣時亦已被卓害功曹心知是太祖以世方亂不宜拘天下雄傑西白令釋之卓遂殺太后及弘農王太祖至陳留散家財合義兵將以誅卓冬十二月始起兵於己吾世語曰陳留孝廉衛茲以家財資太祖使起兵是歲中平六年也初平元年春正月後將軍袁術冀州牧韓馥

(晋) 陳寿『三国志』(大きな字の部分)

無味乾燥な正史の記述

董卓は帝を廢して弘農王とし、新たに献帝を立てた。このため都は大混乱となった。董卓は太祖(曹操)を驍騎校尉に拔擢し、ともに事に当らせようとした。

太祖は名を隠して、密かに東に帰ろうとした。関所を出て中牟を過ぎたころ、亭長に捕らえられ、県役所に連行された。しかし太祖と気づいた人の計らいで、釈放された。

では『三国志演義』に描かれた呂  
伯奢一家惨殺事件は、どのような史

料に基づいているのか？

女皆殺之殺先入戶搜至厨下見縛一猪欲殺靜軒有詩

藥曰

夜深喜識故人客正還寄舊蹤一念誤將良善戮  
方知曹操是好雄

陳宮曰孟德心多誤殺好人操曰可急上馬二人行不到  
二里見呂伯奢驢鞍前鞵懸酒二瓶手抱果木而來伯奢

三國志

第四回

九一

叫曰賢姪何故便去操曰被獲之人不敢久住伯奢曰吾  
已分付宰一猪相款使君何憎一宿操不顧策馬便行又  
不到數步操拔劍復回叫伯奢曰此來者何人伯奢回頭  
看時操將呂伯奢砍於驢下宮曰恰纔誤耳今何故也操  
曰伯奢到家見殺死親子安肯罷耶吾等必遭禍矣宮曰  
非也知而故殺大不義也操曰寧使我負天下人休教天

問此口

人人有此心不能人人

下人負我陳宮默然曹操說出這兩句言語教萬代人罵  
當夜陳宮行數里月明中敲開店門投宿先喂飽了馬匹  
操先睡陳宮尋思我將謂曹操是好人棄官跟將他來原  
是狼心狗俸之徒今日留之必爲後患拔劍來殺曹操性

命如何

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

|                    |              |            |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC   |              |            |
| 周 1046BC-771BC     |              |            |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC |              |            |
| 秦 221BC-207BC      |              |            |
| 漢 206BC-220AD      |              |            |
| 魏 220-265          | 蜀 221-263    | 呉 222-280  |
| 晋 265-316          |              |            |
| 五胡十六国時代            |              | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589         | 南朝 420-589   |            |
| 隋 581-619          |              |            |
| 唐 618-907          |              |            |
| 五代十国 907-960       |              |            |
| 遼                  | 北宋 960-1127  |            |
| 金 1115-1234        | 南宋 1127-1279 |            |
| 元 1271-1368        |              |            |
| 明 1368-1644        |              |            |
| 清 1616-1912        |              |            |
| 中華民国 1912-1949     |              |            |
| 中華人民共和国 1949-      |              |            |

# 正史から小説へ

西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝宋の裴松之が正史『三国志』に注釈をつける

刺史郡守以叛眾十餘萬天下騷動徵太祖爲典軍校尉會靈帝崩太子卽位太后臨朝大將軍何進與袁紹謀誅宦官太后不聽進乃召董卓欲以脅太后進書曰太祖聞而笑之曰關聖之官古今宜有但世主不何必紛紛召外將乎試觀詠之事必宜盡吾見其敗也卓未至而進見殺卓到廢帝爲弘農王而立獻帝京都大亂卓表太祖爲驍騎校尉欲與計事太祖乃變易姓名魏書曰太祖以卓終必覆敗遂不就拜進歸鄉里從戲騎過故人成單曰伯有伯伯者伯者出行五子皆在備賓主禮太祖自以背卓命袁其圖已手刺後殺八人而去出關過中牟爲亭長所疑執詣縣邑中或竊識之爲請得解世語曰中人見拘於縣時亦已被卓害功曹心相是太祖以世方亂不宜拘天下雄傑因自令釋之卓遂殺太后及弘農王太祖至陳留散家財合義兵將以誅卓冬十二月始起兵於己吾世語曰陳留李廣有五千是歲中平六年也

時豫州民人殷盛丘纓優足袁紹之在渤海殷慈其興兵遣數部從事守之不得動據東郡太守橋瑁詐作京師三公移書與州郡陳卓罪惡云見逼迫無以自救企望義兵解國患雖得移請諸從事則曰今當助袁氏邪助董卓邪中從事劉子惠曰今興兵爲國何謂袁董卓殺自知己短何有豐邑子惠復言兵者凶事不可爲首今宜往視他州有發動者然後相之冀州於他州不爲弱也他人功未實在冀州之右者也然豫州刺史孔仙英雄記曰仙字公緒陳留人張之數乃作書與紹遺卓之惡辭其舉兵兗州刺史劉岱英雄記曰岱字公範河內太守王匡英雄記曰匡字公範

# 豊富なエピソードを集めた注釈

## 〔解説〕

晋の陳寿が正史『三国志』を編纂してから百五十年ほど後、南朝宋の裴松之がこれに注釈をつけた。

この注釈には当時流行していた「志人小説」（実在の人物にまつわるエピソード）が数多く引用され、正史に登場する人物の人間性が生きいきと伝えられていた。

刺史郡守以叛眾十餘萬天下騷動徵太祖爲典軍校尉會靈帝崩太子卽位太后臨朝大將軍何進與袁紹謀誅宦官太后不聽進乃召董卓欲以脅太后進書曰太祖問而笑之曰關聖之官古今宜有但世主不當假之權讓使至於此既治其罪當誅元惡一獄吏足矣何必紛紛召外將乎欲誅詠之事必宣露吾見其敗也卓未至而進見殺卓到廢帝爲弘農王而立獻帝京都大亂卓表太祖爲驍騎校尉欲與計事太祖乃變易姓名聞行東歸書不在其子伯奢伯奢者出行五子皆在備賓主禮太祖自以背卓命疑其圖已手劍後殺八人而去世語曰太祖過伯奢伯奢者出行五子皆在備賓主禮太祖自以背卓命疑其圖已手劍後殺八人而去出關過中牟爲亭長所疑執詣縣邑中或竊識之爲請得解世語曰中牟人見拘於縣時亦已被卓害事功曹心知是太祖以世方亂不宜拘天下雄傑西白令釋之卓遂殺太后及弘農王太祖至陳留散家財合義兵將以誅卓冬十二月始起兵於己吾世語曰陳留孝廉衛茲以家財資太祖使起兵是歲中平六年也初平元年春正月後將軍袁術冀州牧韓馥英維記曰馮字文節潁川人爲御史中丞董卓舉爲冀州牧于

無味乾燥な正史の記述

董卓は帝を廢して弘農王とし、新たに獻帝を立てた。このため都は大混乱となった。董卓は太祖(曹操)を驍騎校尉に拔擢し、ともに事に当らせようとした。太祖は名を隠して、密かに東に帰ろうとした。関所を出て中牟を過ぎたころ、亭長に捕らえられ、県の役所に連行された。しかし太祖と気づいた人の計らいで、釈放された。

刺史郡守以叛眾十餘萬天下騷動徵太祖爲典軍校尉會靈帝崩太子卽位太后臨朝大將軍何進與袁紹謀誅宦官太后不聽進乃召董卓欲以脅太后進書曰太祖問而笑之曰關聖之官古今宜有但世主不何必紛紛召外將乎欲誅詠之事必宜臨吾見其敗也卓未至而進見殺卓到廢帝爲弘農王而立獻帝京都大亂卓表太祖爲驍騎校尉欲與計事太祖乃變易姓名伯奢伯奢者出行五子皆在備賓主禮太祖自以背卓命疑其圖已手劍後殺八人而去出關過中牟爲亭長所疑執詣縣邑中或竊識之爲請得解世語曰中牟人見拘於縣時亦已被卓害功曹心知是太祖以世方亂不宜拘天下雄傑西白令釋之卓遂殺太后及弘農王太祖至陳留散家財合義兵將以誅卓冬十二月始起兵於己吾世語曰陳留孝廉衛茲以家財資太祖使起兵是歲中平六年也

時豫州民人殷盛丘纓優足袁紹之在渤海殷慈其興兵遣數部從事守之不得動搖東郡太守橋瑁詐作京師三公移書與州郡陳卓罪惡云見逼迫無以自救企望義兵解國患獲釋諸從事則曰今當助袁氏邪助董卓邪治中從事劉子惠曰今興兵爲國何謂袁董卓殷自矜言短向有憂色子惠復言兵者凶事不可爲首今宜往視他州有發動者然後和之冀州於他州不爲弱也他人功未有益在冀州之右者也殷然豫州刺史孔伉英雄記曰伉字公緒陳留人張之叔乃作書與紹董卓之惡其舉兵

## 裴松之注が伝える曹操の人間像

『世說新語』にいう。太祖が伯奢の家を通りかかったとき、伯奢はちようと外出していたが、五人の息子たちが客として歓待してくれた。

太祖は董卓の命に背いたため、自分が狙われているのではないかと疑い、夜になると手にした剣で八人を殺して去った。

(南朝宋) 裴松之注

(晋) 陳寿『三国志』につけられた(南朝宋)裴松之の注



?

テレビドラマ三国志の中で、曹操は呂伯奢一家を惨殺した後、

「寧肯我負天下人休教天下人負我」

(たとえ人を裏切ることがあっても人に裏切られてなるものか)

と、その冷酷さを表すセリフを吐いているが、彼は本当にそんなこと言ったのか？

叫曰賢姪何故便去操曰被獲之人不敢久住伯奢曰吾已分付宰一豬相款使君何憎一宿操不顧策馬便行又不到數步操拔劍復回叫伯奢曰此來者何人伯奢回頭看時操將呂伯奢砍於驢下宮曰恰纔誤耳今何故也操曰伯奢到家見殺死親子安肯罷耶吾等必遭禍矣宮曰非也知而故殺大不義也操曰寧使我負天下人休教天下人負我陳宮默然曹操說出這兩句言語教萬代人罵當夜陳宮行數里月明中敲開店門投宿先喂飽了馬匹操先睡陳宮尋思我將謂曹操是好人棄官跟將他來原

是狼心狗俸之徒今日留之必爲後患拔劍來殺曹操性

命如何

總評

丁○管○伍○孚○是○個○漢○子○然○死○而○無○益○以○謀○之○不○遠○登○之○太○驟○耳○若○本○初○一○書○孟○德○數○語○侃○侃○正○言○幾○微○旨○密○

## 『三国志演義』の曹操の言葉

「寧使我負天下人休教天下人負我」

（たとえ人を裏切ることがあっても、人に裏切られてなるものか）

（明）李卓吾先生批評『三国志』第四回

刺史郡守以叛眾十餘萬天下騷動徵太祖爲典軍校尉會靈帝崩太子卽位太后臨朝大將軍何進與袁紹謀誅宦官太后不聽進乃召董卓欲以脅太后進書曰太祖問而笑之曰關聖之官古今宜有但世主不何必紛紛召外將乎試觀詠之事必宜臨吾見其敗也卓未至而進見殺卓到廢帝爲弘農王而立獻帝京都大亂卓表太祖爲驍騎校尉欲與計事太祖乃變易姓名魏書曰太祖以卓終必覆敗遂不拜聞行東歸魏書曰太祖以卓終必覆敗遂不拜關過中牟爲亭長所疑執詣縣邑中或竊識之爲請得解世語曰中牟人見拘於縣時亦已被卓害功曹心知是太祖以世方亂不宜拘天下雄傑西白令釋之卓遂殺太后及弘農王太祖至陳留散家財合義兵將以誅卓冬十二月始起兵於己吾世語曰陳留李廣衛茲以家財置有五千是歲中平六年也

時豫州民人殷盛丘纓優足袁紹之在渤海殷其兵遣數部從事守之不得動搖東郡太守橋瑁詐作京師三公移書與州郡陳卓罪惡云見逼迫無以自救企望義兵解國患獲釋諸從事則曰今當助袁氏邪助董卓邪中從事劉子惠曰今興兵爲國何謂袁董卓自矜言短何有聖色子惠復言兵者凶事不可爲自今宜往觀他州有發動者然後相之冀州於他州不爲弱也他人功未有在冀州之右者也然豫州刺史孔伉英雄記曰伉字公緒蘭州人張之數乃作書與紹道卓之惡其舉兵兗州刺史劉岱英雄記曰岱字公範河內太守王匡英雄記曰匡字公範

裴松之注が伝える曹操の人物像

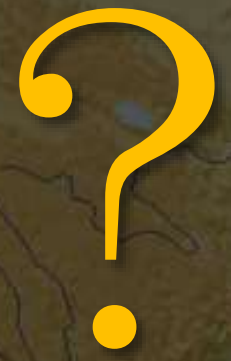
孫盛『雜記』はいう。

「太祖は食器の音を聞き、自分が狙われていゝるのでは考え、夜になると彼らを殺した。殺した後、悲痛な面持ちで『たとえ人を裏切ることがあつても、人に裏切られてなるものか』といい、その場を立ち去った」

(南朝宋) 裴松之注

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

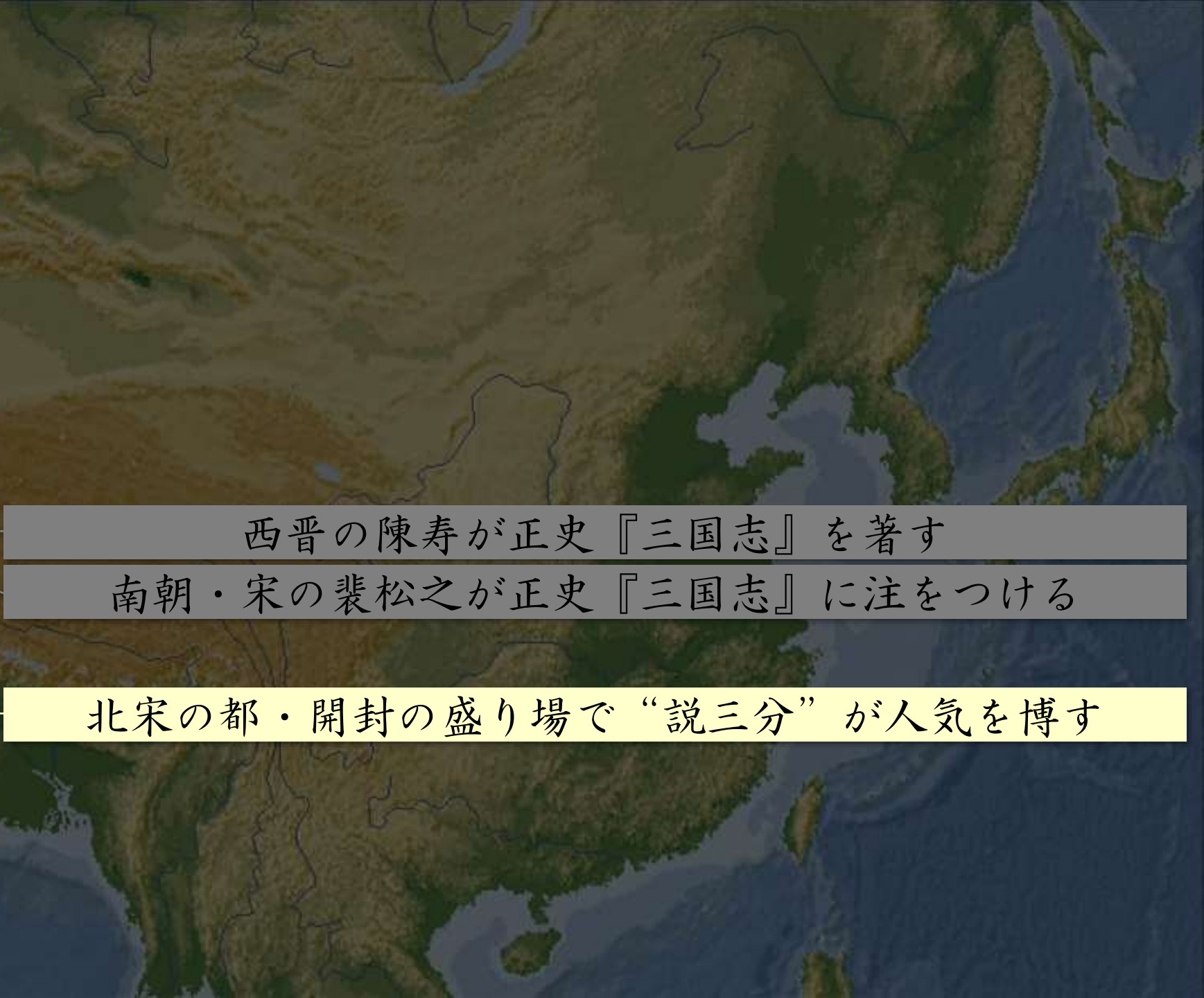
|                    |              |            |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC   |              |            |
| 周 1046BC-771BC     |              |            |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC |              |            |
| 秦 221BC-207BC      |              |            |
| 漢 206BC-220AD      |              |            |
| 魏 220-265          | 蜀 221-263    | 呉 222-280  |
| 晋 265-316          |              |            |
| 五胡十六国時代            |              | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589         |              | 南朝 420-589 |
| 隋 581-619          |              |            |
| 唐 618-907          |              |            |
| 五代十国 907-960       |              |            |
| 遼                  | 北宋 960-1127  |            |
| 金 1115-1234        | 南宋 1127-1279 |            |
| 元 1271-1368        |              |            |
| 明 1368-1644        |              |            |
| 清 1616-1912        |              |            |
| 中華民国 1912-1949     |              |            |
| 中華人民共和国 1949-      |              |            |



三国志はいつごろ、どのようにして「小説」になったのか？

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

|                    |              |            |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC   |              |            |
| 周 1046BC-771BC     |              |            |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC |              |            |
| 秦 221BC-207BC      |              |            |
| 漢 206BC-220AD      |              |            |
| 魏 220-265          | 蜀 221-263    | 呉 222-280  |
| 晋 265-316          |              |            |
| 五胡十六国時代            |              | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589         |              | 南朝 420-589 |
| 隋 581-619          |              |            |
| 唐 618-907          |              |            |
| 五代十国 907-960       |              |            |
| 遼                  | 北宋 960-1127  |            |
| 金 1115-1234        | 南宋 1127-1279 |            |
| 元 1271-1368        |              |            |
| 明 1368-1644        |              |            |
| 清 1616-1912        |              |            |
| 中華民国 1912-1949     |              |            |
| 中華人民共和国 1949-      |              |            |



西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝・宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

北宋の都・開封の盛り場で“説三分”が人気を博す



北宋時代、都の汴京（現在の開封）は  
商業都市として庶民の文化が栄えて  
いた。

しかし、この地はもともと都が置  
かれるような場所ではなかった。そ  
れはなぜか？

# 汴京(開封)とは？

長安

洛陽

北宋の都・汴京(開封)



資料映像：NHKスペシャル「故宮」より（3:54）

# 南北をつなぐ物流の拠点・汴京(開封)

長安

洛陽

通済渠

北宋の都・汴京(開封)



1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 晋 265-316 |           |           |

|         |            |
|---------|------------|
| 五胡十六国時代 | 東晋 317-420 |
|---------|------------|

|            |            |
|------------|------------|
| 北朝 439-589 | 南朝 420-589 |
|------------|------------|

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

|   |             |
|---|-------------|
| 遼 | 北宋 960-1127 |
|---|-------------|

|             |              |
|-------------|--------------|
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 |
|-------------|--------------|

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和國 1949-

# “説三分”とは？

西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝・宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

北宋の都・開封の盛り場で“説三分”が人気を博す

呼豎子狂言非至公廼知太白亦誤認嗣宗語與先友之意無異也嗣宗雖放蕩本有意於世以魏晉間多故故一放於酒何至以沛公爲豎子乎王彭嘗云塗巷中小兒薄劣其家所厭苦輒與錢令聚坐聽說古話至說三國事聞劉玄德敗顰蹙有出涕者聞曹操敗卽喜唱快以是知君子小人之澤百世不斬彭愷之子辜式吏頗知文章余嘗爲作哀辭字大年

脩養

已饑方食未飽先止散步逍遙務令腹空當腹空

時卽便入室不拘晝夜坐卧自便惟在攝身使如木偶常自念言今我此身若少動搖如毛髮許便墮地獄如商君法如孫武令事在必行有犯無恕

北宋時代の三国志講釈

「王彭からこんな話を聞いたことがある。近所にひどく腕白な子供がい  
て、手を焼いた家の人は、子供たち  
に小遣いを与え、集めて説古話（講釈）  
を聞かせた。三国時代の話になると、  
劉備が敗れる場面では眉を顰めて涙  
を流し、曹操が敗れる場面では喜ん  
で喝采を送ったという。」

（宋）蘇軾東坡志林（東坡全集卷一百一所収）

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

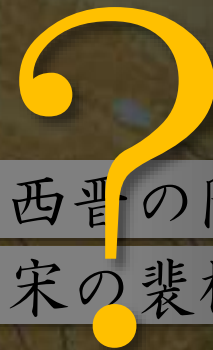
元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-



西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝・宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

北宋の都・開封の盛り場で“説三分”が人気を博す

宋元時代の三国志講釈を知ることが  
かりとなるものはあるのか？

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 晋 265-316 |           |           |

|         |            |
|---------|------------|
| 五胡十六国時代 | 東晋 317-420 |
|---------|------------|

|            |            |
|------------|------------|
| 北朝 439-589 | 南朝 420-589 |
|------------|------------|

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

|   |             |
|---|-------------|
| 遼 | 北宋 960-1127 |
|---|-------------|

|             |              |
|-------------|--------------|
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 |
|-------------|--------------|

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和國 1949-

西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝・宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

北宋の都・開封の盛り場で“説三分”が人気を博す

元で『全相平話三国志』が出版される

建安虞氏新刊



新全相三

至治新刊

國志平話

至治新刊全相平話三國志卷之上

江東吳王蜀地川

曹操英勇占中原

衆報高祖斬首宛

昔日南陽劉秀字文叔帝號爲漢光武

皇帝光武爲自月之光照天下之明武者是得天下

此有號爲武於洛陽建都位五載當日駕因

開過上御園至園內花才奇異觀之不日駕崩大臣

此花園上著之慘近臣奏曰非千王奔奔是區

伯於民校實我後殺東都洛陽之民

博琴入聖寺來曰是二月三日清明節

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

忽有一書生白眉長鬚手執一卷書

全相平話三國志

〔解説〕

元の至治年間（一三二一〜三）に建安（現在の福建省建甌）で刊行された歴史白話小説の一。

北宋の都・開封で語られていた「説三分」など、初期の三國志物語の姿をいまに伝える貴重な資料。



建安虞氏新刊



新全相三  
國平話

至治新刊全相平話三國

劉

## 全相平話三國志

〔解説〕

『全相平話三國志』の「平話」とは話し言葉のこと。正史の『三国志』が文語で書かれているのに対し、『全相平話三國志』は講釈の口調を借りて口語で書かれている。また、庶民向けの通俗書であつたため、漢字には平易な簡体字が多用されている。（□内の字参照）



建安虞氏新刊



新全相三

至治新刊

國志平話

至治新刊全相平話三國志卷之上

江東吳蜀地川  
不長三又分天下

曹操英勇占中原  
衆報高祖斬首宛

日本で発見された最古の三國志

『全相平話三國志』は、大正時代に日本の内閣文庫で発見された。

現在、国立公文書館が所蔵する旧内閣文庫蔵『至治新刊全相平話三國志』（写真）と、天理図書館が所蔵する『至元新刊全相三分事略』の二種が存在する。

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 晋 265-316 |           |           |

|         |            |
|---------|------------|
| 五胡十六国時代 | 東晋 317-420 |
|---------|------------|

|            |            |
|------------|------------|
| 北朝 439-589 | 南朝 420-589 |
|------------|------------|

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

|   |             |
|---|-------------|
| 遼 | 北宋 960-1127 |
|---|-------------|

|             |              |
|-------------|--------------|
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 |
|-------------|--------------|

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝・宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

北宋の都・開封の盛り場で“説三分”が人気を博す

元で『全相平話三国志』が出版される

明で羅貫中が『三国志通俗演義』を著す

元代の『全相平話三国志』と明代の『三国志演義』の違いは？



至治新刊全相平話三國志卷之上

漢帝賞春



以東吳之蜀地川

不是三人分天下

昔日南陽劉白水村劉秀字文

皇帝光武為日月之光照天下之

此若號為光武於洛陽建都之

開遊王御園至園內花木奇異觀

此花園賜王莽之贈近臣奏曰非

伯黎民移買我後處殺東都洛陽

博寡人聖旨來日是二月三日清

寡人共黎民一處賞花至次日百

園中

全相平話三國志

司馬仲相の冥界裁判

『全相平話三國志』

は、今日、広く読まれ

ている『三國志演義』

とは異なり、仏教の因

果応報と輪廻の思想に

よって物語が構成され

ている。



魚臣奉玉皇勅交陛下受者六般  
金鳳盤內放自六般物件是平天  
白玉圭玉束帶警劔仲相見言及  
坐定上執白玉圭八人奏曰這裏  
向那王上執白玉圭八人奏曰這裏  
下請陛下上執白玉圭八人奏曰  
人分在兩旁前引後五十花帽圍  
一座請我王下轎子上發見九龍  
坐受其山呼萬歲畢八人奏曰陛  
下執白玉圭八人奏曰陛下  
勿知其數如此之異後建新室

至治新刊全相平話三國志卷之上

漢帝賞春



全相平話三國志

司馬仲相の冥界裁判

以東吳蜀地川  
不是三人分天下  
昔日南陽劉白水村劉秀字文  
皇帝光武為日月之光照天下之  
此花園王國不圍內花木奇異觀  
伯黎民移買我後殿殺東都洛陽  
博寡人聖旨來日是二月三日清  
才往前行數十步見株弄相向  
上放下酒壺瓦鉢解下琴劍書箱  
在瓦鉢內  
一不  
ときは一世紀初め。

漢王朝を復興した後漢  
の光武帝は、王朝の再  
興を祝うため、清明節  
の日に市民に御園を開  
放し、盛大な花見を開  
いていた。

魚臣奉玉皇勅交陛下受者六般  
金鳳盤內放自六般物件是平天  
白玉圭玉束帶警劔仲相見言  
坐定上白玉圭八人奏曰這裏  
向那王十花兒人中歡地擡過  
下請陛下上高仲相綽起黃袍上  
人分在兩旁前引後五十花帽圍  
一座請我王下轎子上發見九龍  
坐受其山呼萬歲畢八人奏曰陛  
下知此之罪後建新室



全相平話三國志

司馬仲相の冥界裁判

そこに司馬仲相(上図中央右)という一人の書生が登場する。

御園の中で酒を飲みながら史書を読んでいた司馬仲相は、秦の始皇帝の焚書坑儒の下りを読んで溜息をつき、思わず天帝の愚かさをなじってしまふ。  
「もしも私が皇帝だったら、天下の人々を幸福にできるのに」

十八年後有南陽鄧州白水村劉復奪天下把王莽發了見在交會帝即位宰相兼有二十八宿四斗武是紫微大帝天无二日民无二主其兵將拜起元帥怎生乾休仲相八人奏曰陛下試下九龍椅米我下這裏來大个金斧頭砍之殺仲相書明隨解  
そこ  
中央右  
書生  
登場  
する  
御園  
の中  
で酒  
を飲  
み  
なが  
ら史  
書を  
読ん  
でい  
た  
司馬  
仲相  
は、  
秦の  
始  
皇  
帝  
の  
焚  
書  
坑  
儒  
の  
下  
り  
を  
読  
ん  
で  
溜  
息  
を  
つ  
き、  
思  
わ  
ず  
天  
帝  
の  
愚  
か  
さ  
を  
な  
じ  
っ  
て  
し  
ま  
う。  
「も  
し  
も  
私  
が  
皇  
帝  
だ  
つ  
た  
ら、  
天  
下  
の  
人  
々  
を  
幸  
福  
に  
で  
き  
る  
の  
に」  
帝接其衣又見一人高聲叫屈手帶後視磷腦龍麟龍青戰袍抹綠臣是漢高祖之臣姓史名布官封彭越二人初立漢天下一十二帝功太平也不用臣為相執謀背天害其姓命有此冤屈陛下上臣等





問八人漢高祖在何處八人奏曰  
曰依卿所奏八人傳聖旨宣漢高  
下俯伏在地帝問高祖三人狀告  
布正起漢朝天下執謀三人道反  
理高祖奏曰雲夢山有方士之景  
國三人也

### 全相平話三国志

司馬仲相の冥界裁判

訴えを起こしたのは、  
漢王朝の開国の功臣、  
韓信、彭越、蒯徹、英  
布。訴えられたのは、  
漢の高祖・劉邦と呂后  
であつた。



韓信らはいずれも漢  
王朝の建国後、高祖・  
劉邦と呂后の謀略によ  
うって非業の死を遂げ  
ていた。  
司馬仲相は原告・被  
告双方の証言を聞いた  
上で、天帝に次のよう  
な裁きを上奏する。

問三次大臣无語齊王大怒皆上  
大夫如何不解此事与卿三日限  
不朝三日毋卿歸宅問大夫因何不  
大夫面帶憂容遂問大夫因何不  
不知今天下銅鉄皆鳴有君王問



全相平話三國志

司馬仲相の冥界裁判

被告である漢の高

祖・劉邦は、後漢最後

の皇帝献帝となって国

を奪われる。

韓信を殺すよう高祖

に進言した呂后は、伏

皇后に生まれ変わり、

韓信の生まれ変わりの

曹操に殺される。

彭越は劉備、英布

は孫權に生まれかわり、

曹操とともに漢の天下

を三分する

韓信の参謀であつた

萌徹は諸葛孔明となつ

て、劉備を助ける。

大夫如何不辭此事與卿三日限  
不朝三日毋卿歸宅悶人不悅有  
大夫面帶憂容遂問大夫因何不  
不知今天下銅鉄皆鳴有君王問





1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

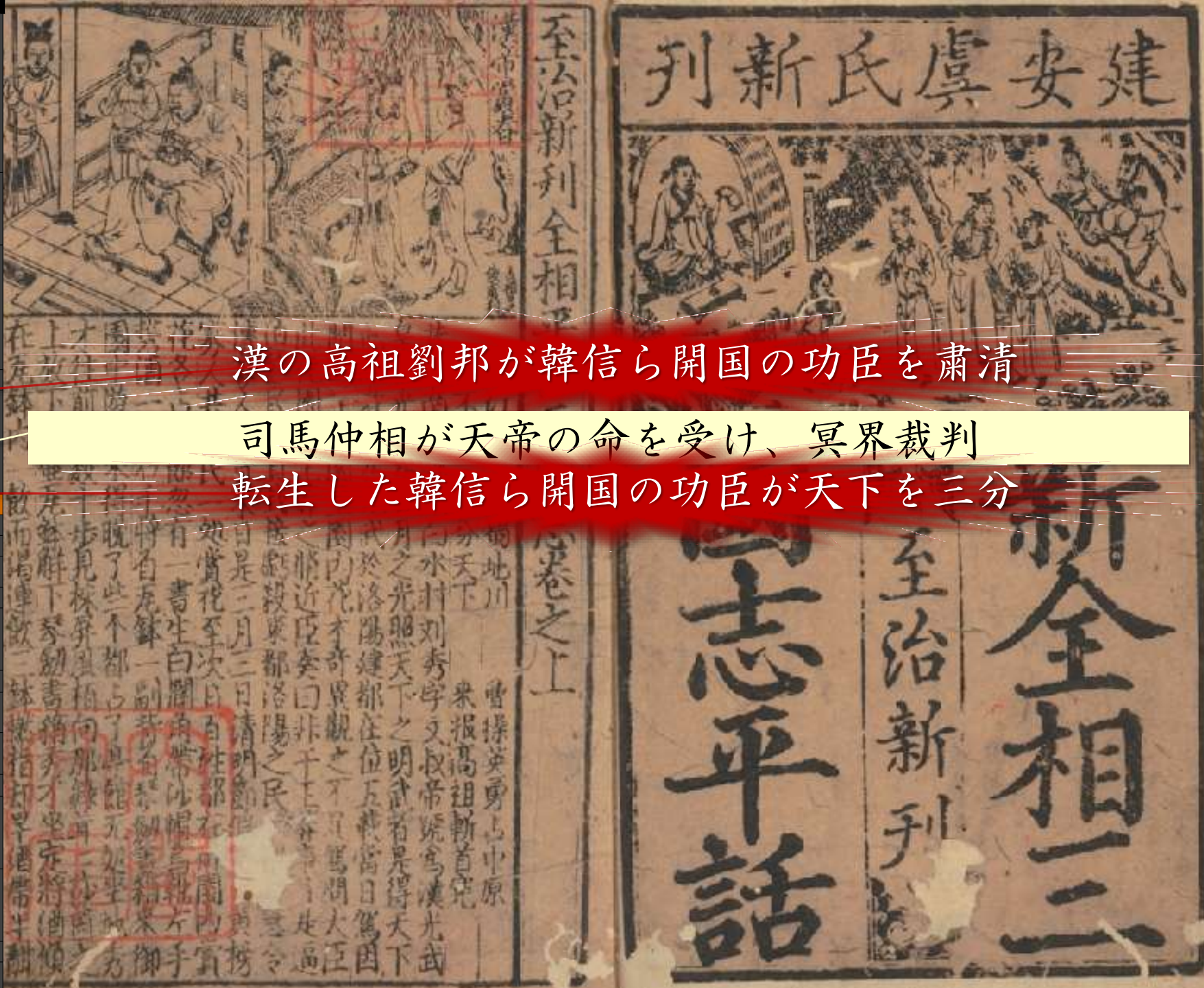
元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-



漢の高祖劉邦が韓信ら開国の功臣を肅清

司馬仲相が天帝の命を受け、冥界裁判  
転生した韓信ら開国の功臣が天下を三分

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 晋 265-316 |           |           |

|         |            |
|---------|------------|
| 五胡十六国時代 | 東晋 317-420 |
|---------|------------|

|            |            |
|------------|------------|
| 北朝 439-589 | 南朝 420-589 |
|------------|------------|

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

|   |             |
|---|-------------|
| 遼 | 北宋 960-1127 |
|---|-------------|

|             |              |
|-------------|--------------|
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 |
|-------------|--------------|

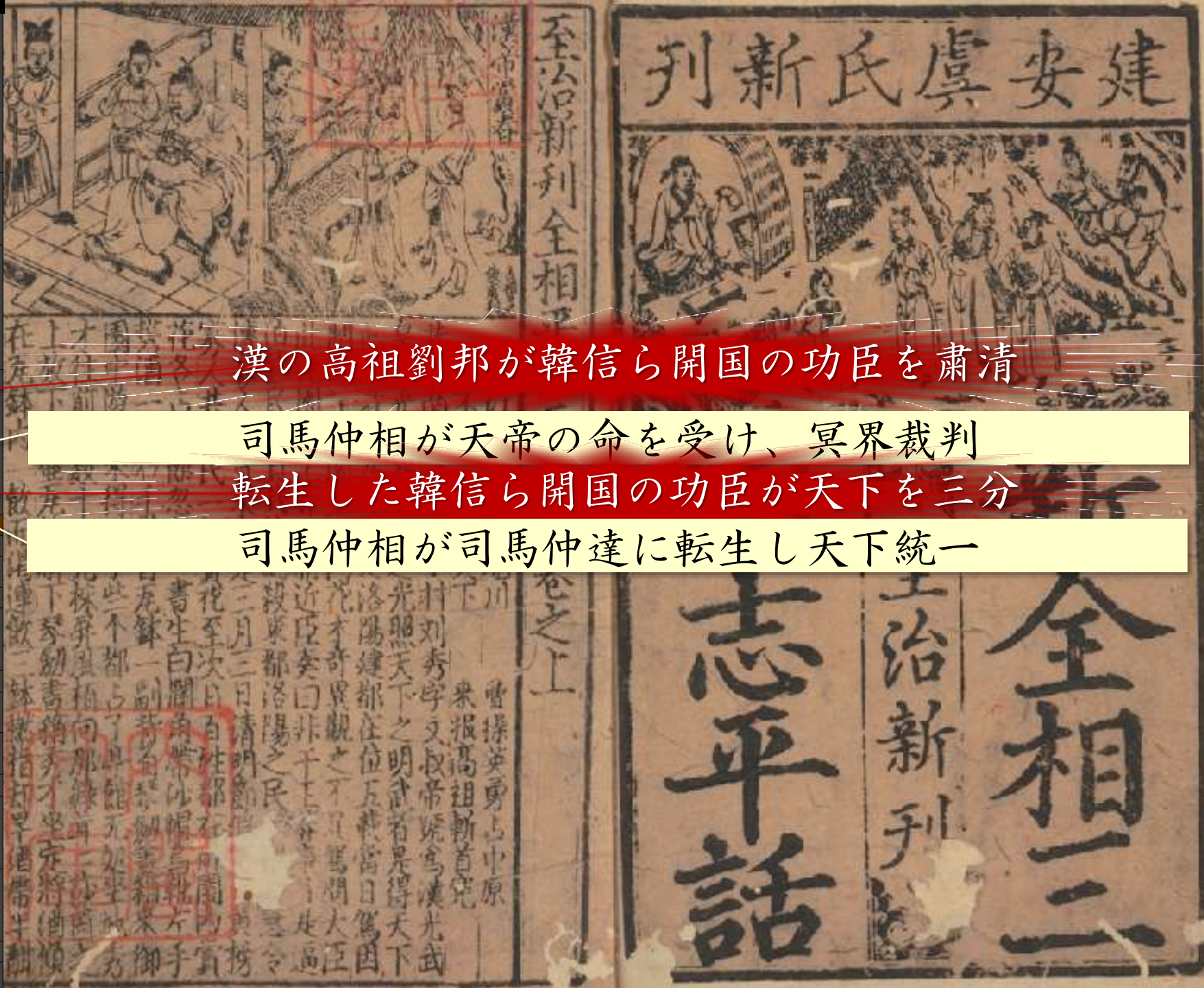
元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-



漢の高祖劉邦が韓信ら開国の功臣を肅清

司馬仲相が天帝の命を受け、冥界裁判

転生した韓信ら開国の功臣が天下を三分

司馬仲相が司馬仲達に転生し天下統一

1600BC  
1500BC  
1400BC  
1300BC  
1200BC  
1100BC  
1000BC  
900BC  
800BC  
700BC  
600BC  
500BC  
400BC  
300BC  
200BC  
100BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

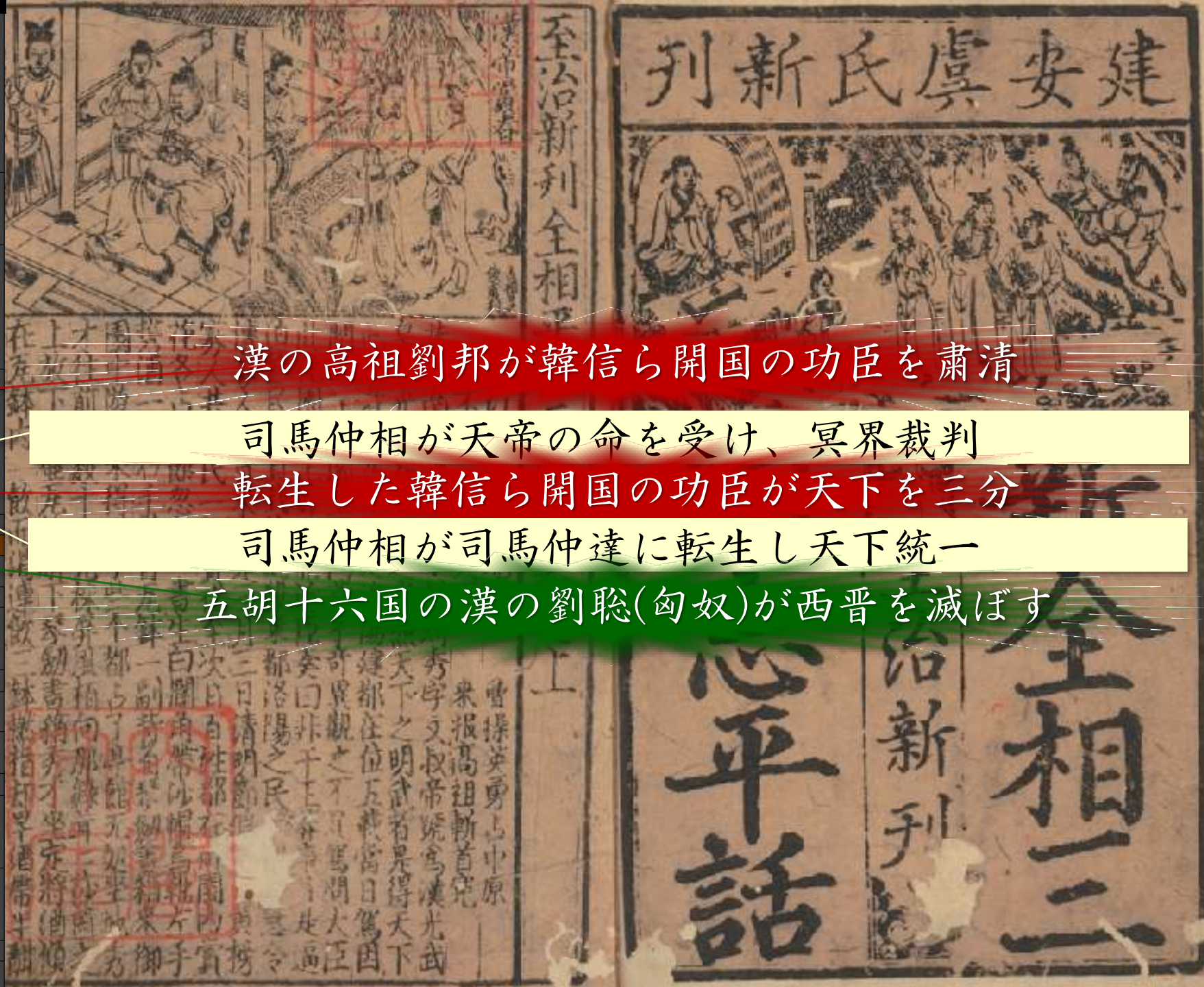
漢の高祖劉邦が韓信ら開国の功臣を肅清

司馬仲相が天帝の命を受け、冥界裁判

転生した韓信ら開国の功臣が天下を三分

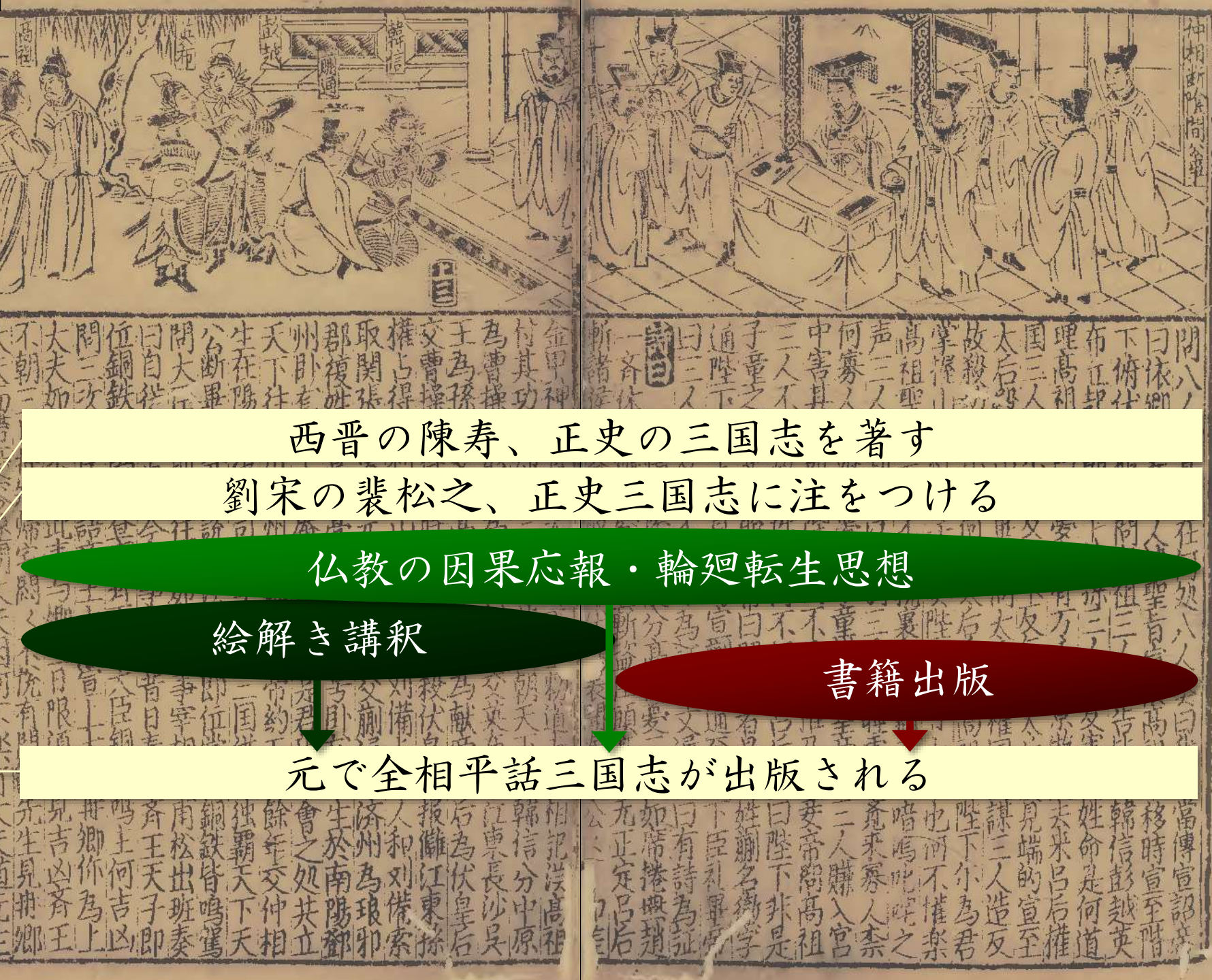
司馬仲相が司馬仲達に転生し天下統一

五胡十六国の漢の劉聡(匈奴)が西晋を滅ぼす



3000BC  
2000BC  
1000BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000

|                    |                        |            |
|--------------------|------------------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC   |                        |            |
| 周 1046BC-771BC     |                        |            |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC |                        |            |
| 秦 221BC-207BC      |                        |            |
| 漢 206BC-220AD      |                        |            |
| 魏 220-265          | 蜀 221-263<br>晋 265-316 | 呉 222-280  |
| 五胡十六国時代            |                        | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589         | 南朝 420-589             |            |
| 隋 581-619          |                        |            |
| 唐 618-907          |                        |            |
| 五代十国 907-960       |                        |            |
| 遼                  | 北宋 960-1127            |            |
| 金 1115-1234        | 南宋 1127-1279           |            |
| 元 1271-1368        |                        |            |
| 明 1368-1644        |                        |            |
| 清 1616-1912        |                        |            |
| 中華民国 1912-1949     |                        |            |
| 中華人民共和国 1949-      |                        |            |



西晋の陳寿、正史の三国志を著す

劉宋の裴松之、正史三国志に注をつける

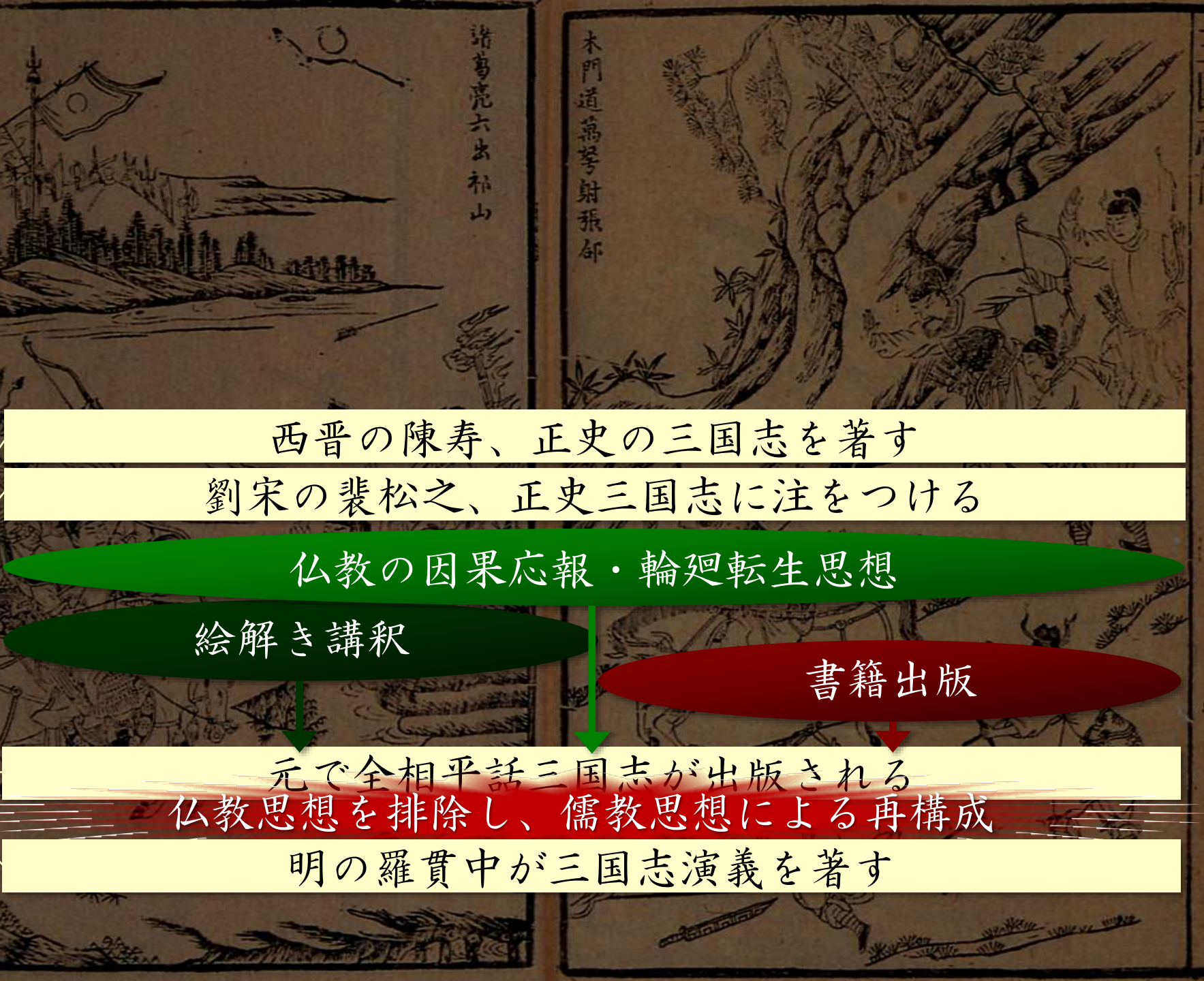
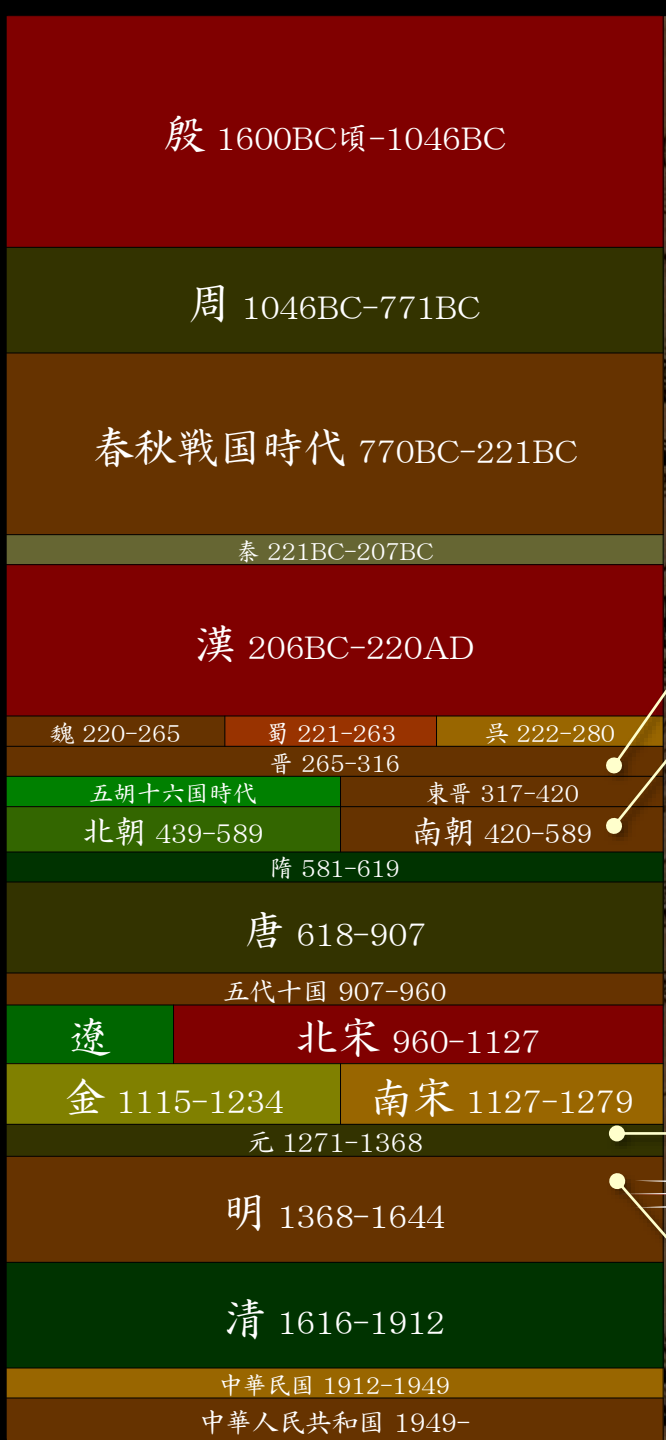
仏教の因果応報・輪廻転生思想

絵解き講釈

書籍出版

元で全相平話三国志が出版される

3000BC  
2000BC  
1000BC  
0  
100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000  
1100  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000



西晋の陳寿、正史の三国志を著す

劉宋の裴松之、正史三国志に注をつける

仏教の因果応報・輪廻転生思想

絵解き講釈

書籍出版

元で全相平話三国志が出版される

仏教思想を排除し、儒教思想による再構成

明の羅貫中が三国志演義を著す

## まとめ

唐宋変革期を経て、中国は貴族の時代から庶民の時代へと変貌を遂げる。

文学の主体が貴族から庶民へと移る中、人気を集めていたのが三国志の物語である。

正史『三国志』は無味乾燥な史実の記録に過ぎなかったが、人物のエピソードを紹介した注釈から多くの興味深い素材が提供され、仏教思想と絵解き講釈の影響を受けた『全相平話三国志』が誕生した。

モンゴルを駆逐し、漢民族の王朝を復興した明代には、仏教から儒教へという思想的転換が図られ、中国を代表する通俗小説『三国志演義』が成立した。

## 参考文献

■ 小川環樹「三国演義発展のあと」  
（中国小説史研究、岩波書店、一九  
六八年）

■ 立間祥介訳『全相三国志平話』（潮  
出版社、二〇一一年）